

ふるさと財団「地域再生マネージャー」情報

1. 基本情報

組織名・所属	伊豆川事務所				
役職	代表取締役				
氏名	伊豆川 嘉規	ふりがな	いずかわ よしのり	生年月日	1958年3月11日
連絡先住所	〒167-0032	杉並区天沼2-2-10			
電話番号	03-3398-6945	メールアドレス	watokatei■gmail.com(■を@に変えて下さい)		

2. 経歴・取組内容、取組分野等

主な経歴・受賞歴	<p>静岡県生まれ。 ◆青山学院大学法学部卒業。 東京、大阪にて食品専門スーパーマーケット「榊大近(ラッキー、パントリー)」店次長として品質志向の食品専門スーパーの店舗運営・商品開発に従事。 その後、榊シーズの新業態として“食のセレクトショップ”「京の味」・「彩菓亭」・「こだわりや」を大丸ピーコック下北沢・自由が丘・青山店内に「こだわりや」・「京の味」・「彩菓亭」を開発運営する。日本各地の高品質食材のコーナーを展開、同時に各地の質販店に卸売業務を行う。</p> <p>◆1995年(平成6年)より食品流通コンサルタントとして活動。 生産者、食品加工業、スーパーマーケット、通販事業、飲食業等の指導を行う。 近年は、岐阜県の地域商品開発をきっかけに「食の経済活動で循環型の地域社会システムを構築する」をテーマに地域活性化活動が増加。</p> <p>◆総務省 地域力創造アドバイザー(地域人材ネット登録)</p>					
	主な取組内容、実績等	<p><事業内容> ◆食品生産加工業の指導。新規事業・商品開発・販路開拓・販売指導・従業員教育。 ◆食品小売業、飲食業の指導。新業態開発・販売計画・商品開発・ゾーンニング・棚割・研修会・従業員教育等の店舗・組織運営に関わるコーチング。 ◆地域社会の活性化活動。</p> <p><実績等> ◆「岐阜県名産販売」の県産品開発と販路開拓。 ◆朝日新聞「お取り寄せの逸品」商品セレクトと執筆、高島屋会員通販「ごちそう讚」商品セレクトと執筆。 ◆新丸ビル「日本のご馳走“えん”」セレクトショップ新業態開発指導。 ◆浅草:すきやき「ちんや」商品構成・販促等の店舗改善指導。 ◆「榊明治屋産業:船橋ラポート店・代官山店」新規オープンと店舗運営全般指導。 ◆三重桔梗が丘「榊近鉄百貨店」、鹿児島「榊クッキー」、新潟越後湯沢「のぐち」、東京目黒「亀屋」、鹿児島「東郷」、東京、埼玉「ピオマーケット」等の商品開発、店舗運営、人材教育、商品構成、販売促進等組織運営全般指導。 ◆千葉:海産物加工「リアス」、静岡:練り製品製造「いちろうこ」、宮崎:梅生産加工「紅梅園」、千葉:小麦製品製造「ハッコー食品」、愛知:ところてん製造「赤川商店」、香川:そうめん製造「森本商店」、大阪:冷凍食品製造「トヨクニチルド」、鹿児島:食肉加工「鹿児島ますや」等の新規事業、商品開発、販路開拓、販売指導、従業員教育。</p>				
取組分野		1	観光振興	○	7	住民参加・協働
	2	産業振興		8	イベント交流	
	○	3	過疎地域・限界集落の振興	○	9	食品流通
		4	中心市街地活性化		10	環境
		5	まちづくり景観	○	11	NPO・ボランティア
	○	6	農林水産品の開発・ブランド化		12	その他()

3. 関連ホームページ	
名称	アドレス

4. ふるさと財団での実績	
地マ 域 再 生 ジ ャ ー	<p>◆2010年度 青森県大鰐町 「鰐comeプライベートブランド創出事業」</p> <p>◆2012年度 青森県大鰐町 「大鰐温泉もやしブランド化推進事業」</p>
地セ 域 再 生 講 師	
環マ 境 整 備 ジ ャ ー	
初マ 期 対 応 ジ ャ ー	◆2010年度 青森県深浦町

5. 財団報告書	
名称	アドレス
平成22年度 地域共創ビジネス支援事業	http://www.furusato-zaidan.or.jp/chiiki/pdf5/1321407101251.pdf
平成24年度 新・地域再生マネージャー事業	http://www.furusato-zaidan.or.jp/1-H24-shinchiiki-houkokusyo.pdf

6. 写真・ひとことPR	
	<p><ひとことPR></p> <p>いずれの取組も、地域活性化に主体的に取り組む担い手組織(ビジネスも含めた地域づくりを行う住民組織)の設立、育成に取り組むことによって、具体的な実践に取り組むことを可能にしています。</p> <p>一方で、行政との協働や地域内のステークホルダーとの合意形成を可能にするアドバイスや具体的な手法(ワークショップやパートナーシップテーブル)での支援を行っています。</p> <p>計画段階から、多くの住民、さまざまなステークホルダーに参加・関与してもらう事、実際に実践できる担い手組織を育成し、実践段階でも支援することを重視している。こうしたマネジメントサイクルに基づいた全体プロセスをイメージした支援が我々の強みです。</p> <p>「支援先の人材が自ら問題を解決し、常に組織改革に取り組む支援を行います。」</p>